

令和2年度学校評価のまとめ

1 教職員による学校評価（自己評価）

(1) 数値による評価

- ・ 「安心・安全」、「人権（子どもの人権に配慮した教育活動）」、「教育活動」、「研修」、「信頼」、「センター的機能」、「連携」に関する評価については、高評価（「4」もしくは「3」）の割合が学校全体で95%以上だった。中でも「研修」に関する評価は、7月の結果より高評価の割合が5%ほど増えている。8月以降の実践の実践を通して、本校の研修体制が充実してきた成果だと考えられる。
- ・ 「安心・安全」に関する評価については、高評価の割合が各学部で90%を超えている。ただし、記述意見にある通り、インシデント報告等を踏まえた教育環境の整備については、今後の改善が必要だと考えられる。
- ・ 「働き方」に関する評価については、学校全体での高評価の割合が、90%を下回っている。学部別では、中学部で25%、高等部で21%の職員が「2（やや不十分）」と評価をしており、高等部からは記述意見も多く挙げられている。一方で、高等部の高評価の割合は、7月の結果より9%ほど増えている。「効率的な業務の推進」や「勤務時間の管理」は本校の大きな課題であるが、8月以降の実践を通して、業務改善を実感できる職員が少しずつ増えてきたのではないかと考えられる。

(2) 記述による評価

- ・ 「業務内容や職場環境の改善」に関する意見が13件挙げられている。7月の結果でも18件挙げられており、本校の大きな課題である。業務の見直しや簡素化だけでなく、職員一人一人が抱える仕事量の偏りが少なくなるように検討していく必要がある。
- ・ 「職員間の情報共有や連携」に関する意見が7件挙げられている。7月の結果でも7件挙げられており、本校の課題の一つである。職員間の情報共有や連携を高めるために必要な手立てや時間を整備し、教育目標や努力点と日々の実践とをつなげていく必要がある。

2 教職員による学校評価（校務分掌別評価）

7月の結果より平均値が下がった項目もあるが、111項目中109項目は、平均値が3以上の評価となっており、各校務分掌の努力点はほぼ達成されたという結果になった。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止により行事等が縮小され、評価することが難しい項目もあった。今年度中にそれぞれの業務を振り返り、PDCAサイクルのC→A→Pを行うことで、来年度の円滑なDにつなげる必要がある。校務分掌反省や係会等で、努力点や業務内容、係の必要人数などを検討し、改善が必要なものについては確実に変更した上で来年度に引き継げるようにする。

3 学校評価（保護者アンケート）

(1) 数値による評価

- ・ 学校全体では、「通知表の工夫」に関する取組が高く評価されている。
- ・ 小学部では、「学校からの情報発信」、「個別の教育支援計画の活用」、「通知表の工夫」、「楽しい学校」に関する取組が高く評価されている。

- ・ 高等部では、「通知表の工夫」、「健康安全や事故防止への配慮」、「道徳や社会マナーの指導」に関する取組が高く評価されている。
- ・ 「開かれた学校づくり」、「活発なPTA活動」に関する取組は、昨年度より低い評価になっている。昨年度と比較すると、二つの項目とも、「0：分からない」という評価の割合が大幅に増えている。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校行事やPTA活動が中止もしくは縮小され、評価が難しいと感じた保護者が増えたことが原因と考えられる。
- ・ 「進路指導の充実」に関する評価については、高評価の割合が高等部では85%あるのに対して、小・中学部では、70%を下回っている。この項目は、小・中学部とも20%以上の方が、「0：分からない」という評価を選択している。小・中学部では、「高等部卒業は先のことで、進路へのイメージがもちにくい」と感じている保護者が多いことが原因ではないかと考えられる。学部・学年PTA等を利用して、教師と保護者間で進路指導に関する情報共有を行ったり、身辺処理や読み書き、友達との関わりといった普段の学習活動が進路指導につながっていることを啓発したりすることで、発達段階に応じた進路指導についての理解を深めてもらう必要がある。また、「学校は、卒業後に向けた発達段階に応じた進路指導（支援活動）を、行っていますか。」という質問内容が具体性に欠け、評価が難しいと感じた保護者が多いことも原因と考えられる。学部ごとに評価項目を設定するなど、アンケート内容についての検討が必要である。

(2) 記述による評価

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた本校の取組に対する意見が多く寄せられた。来年度も、新型コロナウイルスの影響で学校行事やPTA活動等が制限されることが予想される。感染症対策を徹底しながら「行事等の実施」、「学習指導に関する情報発信」、「保護者や地域に開かれた学校づくり」などに、どのように取り組んでいくかが大きな課題である。
- ・ 学級編制、職員の配置、学習内容、進路指導について、改善を求める意見がいくつか挙げられた。保護者との連携を深め、その思いを十分に汲み取りながら個に応じた対応をより充実させる必要がある。一方で、PTAやミーティングなどを通して、本校の教育方針や教育内容を保護者に理解していただくための取組も充実させる必要がある。

4 学校評価（児童生徒アンケート）

児童生徒会役員8人を対象に実施し、7人から回答を得た。おおむね高い評価を得ているが、7番（進路に関する評価項目）の平均値が3.5を下回っている。児童生徒が将来に希望や目標をもてるように、発達段階に応じた進路指導を充実させる必要がある。